



のうえん すくすく農園だより



令和3年度(2021年度)豊中市立箕輪小学校 藤本・生形 NO.5

6月14日(月)の1～4時間目に、5年生が田植えを行いました。当日は良い天気で、暑い位の気温のなかの田植え。地元の方々のご協力のもと、皆楽しそうに「泥が気持ちイイ～!」「足はまったー!」等と言いながら頑張っていました。

田んぼの中を動きやすいように、板を1本わたして下さっていました。その上を歩いて、植える場所まで行きました。



途中、2年生が見学に来ました。先輩のカッコいい後姿を見ることができたかな？5年生になったら一緒にしましょうね!

一人ひとりに丁寧に植え方を教えていただきながら植えました。



ご協力くださった地域の皆様
※写真に写っていない方もいらっしゃいます※



自分たちで育てる用に、ペットボトルにも稲を植えました。田んぼもこちらも両方とも無事に育ちますように!



田んぼがある学校は、豊中市の中でも数えるほどしかありません。こうして毎年田植えや稲刈り等の体験ができるのは、地域の方々のご協力のおかげです。田植えの前にも、田おこしや苗づくり、田すき、しろかき、他にも色々な準備をしてくださいました。当日には日よけも用意くださり、田植えをしやすいようにサポートしてくださいました。本当にたくさんお世話になりました。ありがとうございました。

米ができるまで



日本の稲は水田でつくられています。水田でつくられるのは、稲が水を好きな植物であることのほかに、同じ場所で毎年植えることができるためです。田植えから稲刈りまでは、約5か月ぐらいの期間をかけて行われます。

※稲の生育については、天候や地域差もあるのでひとつの目安としてお使いください。



6月10日に福本さんと橋本さんがしろかきをしてくださっていた様子です。しろかきは、稲の根が張りやすいように、水を張った状態で田んぼの土をすいてやわらかくすることをいいます。

しろかきの後、田んぼをならして平らにしてくださいました。



箕輪小学校専用のトラクター。すすく農園のためにご用意くださったそうです！



田植えが終わった後は、肥料をまいてくださっていました。無事に育ちますように！そして美味しいお米が穫れますように！！